

主題：神の王国の実際の中に生きる

メッセージ 13

神・人の生活をし忠信で思慮深い奴隷となることによって、王国の実際の中に生きる

聖書…マタイ 14:19, 22-23, 24:45-51

- I. 神の必要は、団体の人が、神聖な啓示の高嶺を通して、彼の恵みによって起こされて、この啓示にしたがった生活をするということです——使徒26:16, 19:
- A. 復興とは、わたしたちが見てきたビジョンを実行することです。
  - B. わたしたちが神・人の生活を実行するなら、すなわちキリストのからだの実際である生活を実行するなら、自然に団体のモデルが、すなわち神のエコノミーの中に生きるモデルが、建て上げられます。このモデルは召会歴史における最大の復興となり、主の再来をもたらします。
- II. キリストの弟子たちが（マタイ 5:1, 28:19）弟子に構成されたのは、神・人のモデルとしてのキリストの地上での人の生活を通して、すなわちキリストが人性の中でご自身を否むことによって神を生きることを通してでした（ヨハネ 5:19, 30）。この事が人に関する彼らの観念を根本的に変えました（ピリピ 3:10, 1:21 前半）:
- A. わたしたちの生活は、最初の神・人であるキリストの生活のモデルのコピー、複製であるべきです——I ペテロ 2:21, マタイ 11:28-29, エペソ 4:20-21, ヨハネ 10:30, 5:19, 30, 7:6, 8, 18。
  - B. 弟子たちの中へと吹き込まれた命と実際の霊は、彼らを導いて、彼らが三年半の間、主と共にいた時に主について観察したことの実際の中へともたらしめました——16:13, 20:22。
    - 1. 最初の神・人の務めの開始の時、彼はバプテスマされてすべての義を成就し、彼の肉体（彼の人性——1:14, ローマ 1:3, 8:3）によれば、彼は何の役にも立たず、ただ死と葬りにだけふさわしいことを認識していました——マタイ 3:15-17。
    - 2. 彼は五つのパンと二匹の魚をもって五千人を養う奇跡において、彼の弟子たちを訓練して彼から学ばせました（11:29）。
      - a. 彼が「天を見上げて」五つのパンと二匹の魚を祝福したことは（14:19）、祝福の源が遣わされた者であるご自分ではなく、遣わす方である御父であることを、彼が認識していたことを示します。
      - b. 彼が天を見上げて五つのパンと二匹の魚を祝福したことは（14:19）、祝福の源が遣わされた者であるご自分ではなく、遣わす方である御父であることを、彼が認識していたことを示します。——22-23節, ルカ 6:12, 参照、雅 1:1-4。
    - 3. 彼は弟子たちに祈ることを教えて、神のエコノミーのために、神のみこころを行なわせ、神への信仰を持ち、疑わないようにと教えました——マタイ 21:21-22, マルコ 11:22-24。
    - 4. 彼は神と接触する生活をし（1:35, ルカ 5:16, 6:12, 9:28, ヘブル 7:25）、絶えず神の臨在の中を生きました（使徒 10:38 後, ヨハネ 8:29, 16:32）。また彼は人々

と接触する生活をし、神を彼らの中へと供給して、彼らを神の新約エコノミーのヨベルの中へともたらしめました（ルカ 4:18-19. ヘブル 8:2. 参照、創 14:18. 使徒 6:4）。

5. 彼の中では、この世の支配者であるサタンは何も持っていませんでした（何の立場も、何の機会も、何の望みも、どんな事における何の可能性も持っていませんでした）——ヨハネ 14:30 後半。

C. わたしたちはまた、キリストによって遣わされた人たち（彼の奴隷たち、すなわち彼の複製）の内在的な模範を観察することによって、弟子に構成されて、神・人の生活をします。（「わたしはウオッチマン・ニー兄弟の振る舞いを十八年間、回復の中で観察してきました。ニー兄弟を観察したことはすべて、わたしを弟子に構成するものとなりました」——「バイタルグループ」、第2章）——I コリント 4:17. ヘブル 13:7. ピリピ 3:17. I テモテ 4:12。

D. 主のモデルにしたがって神・人の生活をする唯一の道は、わたしたちの全存在をミングリングされた霊の上に置き、ミングリングされた霊にしたがって歩き、生き、存在することです——ローマ 8:2, 4, 6, 16. I コリント 6:17. ローマ 10:12. エペソ 6:17-18. I テサロニケ 5:16-20. II テモテ 1:6。

Ⅲ. 「そこで、主人が家族の上に任命して、時に応じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？ 主人が来た時、そのように行なっているのを見られる奴隷は幸いである。まことに、わたしはあなたがたに言う。主人は彼に自分の全財産を管理させるようになる」——マタイ 24:45-47：

A. 信仰の中にある神のエコノミーは、神の家庭のエコノミー、神の家庭の行政です。それは、キリストにあって、選びの民の中へのご自身を分与し、家を得て、ご自身を表現するためです。その家は召会、キリストのからだです——I テモテ 1:4. 3:15. エペソ 2:19。

B. 忠信で思慮深い奴隷は、神の家の執事、家庭の管理者であり、キリストを食物として彼の信者たちに分与します——I コリント 9:17. エペソ 3:2. I コリント 4:1. I ペテロ 4:10:。

1. 忠信さは、主に対して示すものです（I コリント 4:2. 7:25）。思慮深さは、信者たちに対して表すものです（参照、コロサイ 1:28. 歴代下 1:10. ピリピ 4:5）。

2. 天の王国の出現において、主は忠信な奴隷にご自身の全財産を管理させます。これは、彼の奴隷に対する褒賞となります——マタイ 25:21, 23。

C. 「食物を与える」とは、召会の中で、信者たちに命の供給として神の言葉とキリストを供給することを指しています。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの食物であり、彼は命の言葉の中に具体化され、実際化されています——24:45. ヨハネ 6:57, 63, 68。

1. 主をわたしたちの霊的食物として享受して、他の人たちを養うことができるようになるために、わたしたちはすべての祈りによって、また繰り返し思うことによって、彼の言葉を受け取る必要があります——エペソ 6:17-18. 参照、レビ 11:2-3. エゼキエル 3:1-4。

2. わたしたちは、祈りと言の務めを堅く持ち続ける必要があります——使徒 6:4。

参照、ヘブル 7:25. 8:2。

3. わたしたちは預言して、召会を建造する必要があります。すなわち、わたしたちの霊を活用することを通して、また聖霊の即時的で新鮮な靈感、油塗り、照らしの下で、またこの命の生きた言葉を用いて、わたしたちの見たものを語るのです——I コリント 14:4 後半. 使徒 5:20. 4:20. 22:15。
4. わたしたちは、自分自身を神の中へと祈り込み、命を与える霊をわたしたちの供給、わたしたちの霊的食物として受け入れ、わたしたち自身とわたしたちの顧みの下にある人たちを養う必要があります——ルカ 11:1-13。
5. わたしたちは、命を分与する「祈り求める者」、すなわち命を与える霊の管となる必要があります——I ヨハネ 5:16。
6. わたしたちは、諸召会に対する供給の管として、「新鮮な油の子ら」となる必要があります——ゼカリヤ 4:6, 12-14. 士 9:9. ピリピ 1:23-25. 啓 3:18. マタイ 25:9。
7. わたしたちは主と一となって、彼の人性の中で人をはぐくみ、彼の神性の中で人を養う必要があります——啓 1:13. エペソ 5:29。
8. わたしたちはキリストの天の務めと協力して、主の小羊と羊を養う必要があります——ヨハネ 21:15-17. I ペテロ 2:25. 5:1-4. ヘブル 13:20。

IV. 「しかし、その邪悪な奴隷が心の中で、『わたしの主人は来るのが遅れる』と言い、奴隷仲間を打ちたたき始め、酔っ払いどもと食べたり飲んだりするなら、その奴隷の主人は、思いがけない日、知らない時に来て、彼を断ち切り、偽善者たちと同じ目に遭わせる。そこでは、泣き叫んだり歯がみしたりする」——マタイ 24:48-51 :

- A. わたしたちが心の中で、「わたしの主人は来るのが遅れる」と言うことは、現在の邪悪な世代を愛し、主の出現を愛さないことです——II テモテ 4:8, 10。
1. わたしたちに今日がある限り、わたしたちは主と彼の出現を愛し、彼の来臨を待ち望み、彼の来臨を警告、励まし、動機づけとすべきです——8 節. ピリピ 3:20. 啓 22:12。
  2. 主の来臨のために、わたしたちは目を覚まし、用意をする必要があります——マタイ 25:13. 24:44。
  3. わたしたちはむさぼりに注意し、自分のための宝を蓄えることをせず、神に対して富んでいる必要があります——ルカ 12:16-21. II コリント 6:10. エペソ 3:8。
  4. わたしたちはロトの妻を思い出す必要があります。そして、神が裁き、徹底的に滅ぼす邪悪なこの世を、愛したり尊んだりしないようにする必要があります——ルカ 17:28-32。
  5. 主の来臨の日がわなのように、突然わたしたちに襲いかかることがないように、わたしたちは目を覚まして、祈り求めている必要があります——21:34-36. 参照、マタイ 2:3。
  6. 「主イエスよ、来たりませ！」—これは、主と彼の出現を愛する人々の熱望、叫び、恒常的な祈りであるべきです——啓 22:20. テトス 2:12-13。
- B. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、わたしたちの信者仲間を虐待することです——参照、使徒 9:4。
1. わたしたちは、わたしたちの信者仲間を裁いたり罪定めしたりせず、彼らに対し

- て親切であり、情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださいましたように、彼らを赦すべきです——ルカ 6:37. エペソ 4:31-32。
2. わたしたちは、わたしたちの兄弟たちをののしったり批判したりすべきでなく、彼らを自分自身よりすぐれていると思うべきです—— I コリント 6:10. ピリピ 2:3, 29。
  3. わたしたちは、わたしたちの信者仲間たちの上に権力を振るうのではなく、しもべ、さらには奴隷として、彼らに仕え、命を与える霊としての復活したキリストをもって彼らを養うべきです—— I ペテロ 5:3. マタイ 20:25-28. 参照、民 17:8。
- C. 酔っ払いどもと食べたり飲んだりすることは、世的な事柄で酔いしれているこの世の人々との交遊を保つことです——マタイ 24:49. 参照、エペソ 5:18。
1. 信者は、彼らの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、未信者と共にくびきを負うべきではありません。これは、結婚や仕事にだけでなく、信者と未信者の間のあらゆる密接な関係に適用されるべきです—— II コリント 6:14. I コリント 15:33. 参照、箴 13:20。
  2. わたしたちは、若い時の欲から逃れて、純潔な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求める必要があります—— II テモテ 2:22。
- D. 王国の出現において、忠信で思慮深い奴隷は、支配する権威を褒賞として与えられます。しかし、邪悪な奴隷は、栄光のキリストから、彼の王国の栄光から、彼の王国にある彼の栄光の臨在から断ち切られます——マタイ 24:47, 51。
1. 王国の出現から断ち切られることは、外の暗やみに放り出されることです。ここでは、泣き叫んだり歯がみしたりします。
    - a. 外の暗やみとは、王国の出現の輝く栄光の外にある暗やみです—— 16:28. 25:30。
    - b. 泣き叫ぶことは後悔を示し、歯がみすることは自責を示します。
  2. 千年王国においてキリストと共に諸国民を支配することは、彼の忠信で思慮深い奴隷に対する褒賞です——啓 2:26. ルカ 19:17-19。